

ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：柳川美麿（教育学部教育学科／教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

育英大学教育学部に所属し、主に教育学研究法（3年生ゼミ）、卒業研究（4年生ゼミ）、および教養科目「健康と運動」の授業を担当している。

「教育学研究法」は、教育学部の学生が卒業研究に取り組む準備段階として、研究の基礎的な方法を学ぶ授業であり、文献の収集・整理、研究テーマの設定、仮説構築、調査・実験の手法と倫理について指導している。

「卒業研究」は4年生ゼミであり、学生が各自の研究テーマに基づいた卒業論文を作成するための個別指導を中心としている。文献指導や研究計画の策定、進捗管理、論文構成や表現指導など、きめ細かな対応を行っている。

「健康と運動」は教養教育として提供しているもので、運動実技と講義を組み合わせた授業である。実技では基礎体力や柔軟性、バランス力を高めるトレーニングを取り入れ、講義では運動の健康効果や生活習慣病予防の観点からの知識の定着を目指している。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

私の教育の基本的理念は、「教育は知識の伝達にとどまらず、人格形成と社会的自立を支える営みである」という考え方に基づいている。特に、教育学研究法や卒業研究においては、学生が自身の問いを深め、他者の視点を学び、論理的に思考・表現する力を育成することを重視している。

また、「健康と運動」の授業においては、身体の健康が学習意欲や自己肯定感に直結することを念頭に置き、運動習慣を育むことを通じて、学生の生活全般の質の向上を支援することを目的としている。

大学教育は、単なる知識獲得の場ではなく、学生が社会に出てからも学び続け、自ら考えて行動できる人間へと成長するための基盤であると考えている。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

「教育学研究法」では、演習形式を基本とし、学生の発表とグループ討議を中心に進行する。毎回の授業で文献講読や研究計画の作成を行い、学生が主体的に研究課題に取り組む姿勢を促している。

「卒業研究」では、個別面談を通じて学生一人ひとりの進捗や課題を確認し、柔軟に指導計

画を調整している。また、ICT ツールを活用して、論文の草稿の共有やフィードバックを迅速に行っている。

「健康と運動」では、講義と実技を週ごとに交互に配置し、健康科学の基礎理論と運動実践の両立を図っている。実技ではペアやグループでの活動を通じて、協調性やコミュニケーション能力の育成も意識している。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

「教育学研究法」では、研究の基本的枠組みを理解し、自らの問題関心を研究テーマに落とし込む力が身につけてきた学生が多い。授業後のレポートでは、学びに対する内省や、教育への関心の深化がうかがえる記述も見られる。

「卒業研究」では、学生が自らの経験や関心を出発点に研究を構想し、最終的に自分の言葉で論文をまとめ上げる姿に、明らかな成長が見られる。毎年、教育現場や地域と関連したテーマを取り上げる学生も多く、現実社会との接点を意識した成果が生まれている。

「健康と運動」では、運動習慣のなかった学生が運動を楽しみながら取り組む姿勢に変化し、期末アンケートでも「体力がついた」「生活リズムが整った」といった肯定的な声が多く寄せられている。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

「教育学研究法」において研究倫理や情報リテラシーに関する扱いをさらに強化し、時代に即した研究能力の育成を図りたい。「卒業研究」では、論文の質のさらなる向上とともに、学外での発表機会を増やすことを検討している。

「健康と運動」の授業において、アプリを活用したデータ管理と行動変容へのアプローチを取り入れ、科学的根拠に基づいた健康教育モデルの確立を目指す。また、全授業に共通して、学生の多様性に応じた学びの個別化・最適化にも取り組んでいきたい。